

IIS NEWS

☆ 200 KVA の直流発電機動く ☆

この3月始めに、工費200万円を要して、200 KVAの直流発電機が動くようになった。これによつて直流大電流を要する実験が可能になり、差当つて次の諸問題の研究並びに中間試験がこころみられようとしている。

- 金属チタニウムの製錬
- ディーゼル機関自動車等の発動機性能及びトルクコンバーターの研究
- 自動車振動の研究
- 直流大電流母線の研究
- 電鉄用遮断器の研究
- ケーブル鉛被の損傷実験
- 電気溶接に関する研究
- その他

☆ 自動制御研究会新発足 ☆

戦後における自動制御の発展は目覚ましい。まさに日進月歩の感がある。特にアメリカにおいては戦時中にサーボ機構の兵器への応用のために M. I. T. を中心としてサーボ機構の理論および応用についての研究が強力に展開された。戦後それらが続々と発表され、その理論や手法が工業プロセス制御の解析・計画に應用されて、フィードバック自動制御工学の体系が確立されようとしている。工業の将来は必然的に自動化・量産化へ方向へと進んでおり、自動制御がその中核的役割を果すであろう。Wiener 教授が自動制御の出現によつて第二次産業革命が開始されたと述べているのは興味ある言葉である。

このような自動制御の将来性や諸外国における発達に刺戟されて昭和22年9月当研究所の前身第二工学部時代自動制御に興味を持った学内の同好者が中心となつての提唱に自動制御の懇談会をもつようになった。当時は終戦後の混乱を脱していない時期で、当初はごく少数のメンバーでスタートしたが、その後工業界の立直りに応じて会社側からの参加を得て会員も次第に増加し、昭和24年7月からは自動制御研究会と正式に名称を定め、大体毎月一回定例的に研究会を開催して研究発表、文献紹介を行い、現在までに研究会の開催も約50回の回を重ね、会員も個人会員約120名、賛助会員約30社、資料送達約250部に達している。この研究会は最近に至るまでの生立ちの性質上、規約や役員も別に定めず運営されてきたが、今後の会の発展のためには体制を整えて新発足することの必要が痛感されるようになったので、昨年後半から準備を進め規約の決定、理事・会長・副会長の選挙を行い、会長としては、当所兼重所長、副会長としては本学福田節雄教授が就任された。

本研究会は現在までもわが国の自動制御研究の中心的組織として、制御技術の発展や、制御研究者、制御装置

製作者、使用者の制御技術者相互間の連絡、協力に貢献してきた。今後は体制を整備して会の着実な発展を期しているのので、自動制御に興味をもたれる諸氏の積極的な参加を希望するとともに、広く皆様の御支援をお願いする次第である。

なお参考のために本会規約の抜萃を下記に記す。

- (1) 本会は自動制御に関する学術および技術の振興、普及ならびに会員相互の連絡を図ることを目的とする。
- (2) 本会の前条の目的を達成するため次の業務を行う。
 1. 研究会の開催
 2. 見学会の開催
 3. 講演会、講習会の開催
 4. 会報その他刊行物の発行
 5. その他の適当と認められた業務
- (3) 本会の事務所を千葉市彌生町1番地、東京大学生産技術研究所内におく。
- (4) 本会の会員は次の二種とする。
 1. 正会員
 2. 賛助会員
- (5) 正会員は自動制御に関する学識経験を有する個人および工学、理学の専門分野において学識経験を有し、自動制御に関心を有する個人とする。
- (6) 賛助会員は本会の目的を賛助する個人または団体とする。
- (7) 会員は下記の会費を納入するものとする。

正会員	年額	600円
賛助会員	＼	1口 10,000円 1口以上

 但会費の納入は半年毎の分納を認めるものとする。

☆ 生研図書室の近況 ☆

生産技術研究所の図書室は、中央本館に中央図書室があり、5研究部に8分室があつて、3月1日現在で、63,025冊の図書を收藏している。この内、洋書は、29,790冊、和書は、33,235冊で、大部分は工学に関する図書である。

生研図書室の図書は、元第二工学部の蔵書をそのまま転換した上に、研究所となつてからも毎年度相当の予算をこれに注ぎこんで充実を図っている。殊に内外の定期刊行物には重点をおき、現在予約購読中の外国専門雑誌は161種を数えるようになった、又戦争中欠号となつた分についても、46種については、全部又は大部分を補充した、欠号補充は、なお当分続けられる予定である。

生研の建物は、昭和16年頃から昭和20年頃までの建築であつて、木造であるため火災には特に用心している。従つて図書室の経営もこの火災の危険を考慮すれば分散しておくことが適切である。又かなり広い構内を有していることや、研究分野が工学上のほとんど全分野にわたつてのことなどを考えると、それぞれの研究部に置いておく方が利用しやすいということも考えられて、現在は、集中と分散とを兼ねた運営を行つている。従つてある図書は、中央図書室にも置き、その最も関係深い研究部にも置くことになつている。

図書室の運営については、各研究部から選出された教授・助教授による会計10名の委員と、教授総会で選出された委員長により図書委員会を構成し、図書室を指導・助言している。委員長の任期は、2年で現在は菊池真一教授がその任にある。

IIS NEWS

IIS NEWS

☆ 研究所長会議連絡委員会 ☆

文部省所轄の研究所には、直轄の研究所5、国立大学附置研究所52があつて、昭和22年から毎年、各研究所間に共通な研究及び行政事項を協議するため、研究所長会議を開催している。近年は、春秋2回に開催するようになり、本年5月は、その第10回と東京で開くことになっている。この研究所長会議は、日常の連絡機関として、連絡委員会を持ち、委員17名がこれに当つている。兼重所長は、昨年5月、この委員会の委員長に互選され、現在活動を続けている。

昨年5月以来、この委員会で取扱つた事項で、主なものは、1) 行政管理庁の査察結果に対する決議文の作製及び提出、2) 新制大学院設置に関し、これを学部及び研究所の上に置くことの達成に関する件であつて、ことに2) 項については、関係当局及び委員会等に対しても数度にわたる意見交換又は説明等を行い、研究所長の大多数が要望する意見を容れるところとなつた。

なおこの委員会は、在京の8研究所長が常置委員となつて、既に9回程委員会を開いている。この常置委員は、当所所長の外、国語研究所長西尾実、社会科学研究所長鶴飼信成、経済研究所長都留重人、伝染病研究所長長谷川秀治、地震研究所長那須信治、光学研究所長藤岡由夫、精密機械研究所長佐々木重雄の各氏が就任している。

部 外 活 動

一 海外渡航 一

◇教授 久保田 広 4月中旬スペイン(マドリッド)に

おいて開かれる国際光学委員会(C.I.O.)へ日本学術会議代表とし、又同時に行われるスペイン王立物理、化学学会50周年祭典に日本物理学会代表として出席のため4月始め渡欧、途次英、独、仏、スイス及びイタリアの光学工場及研究所を見学。

一 講演 一

◇教授 菊池真一:「最近の天然色写真について」日本化学会近畿支部、日本写真学会関西支部共催講演会(1953.2.4)

一 寄稿 一

◇助教授 浅原照三、金武克己「 α -オレフィンに関する研究(第6報)」工化誌, 55, 589 (1952)

◇助教授 浅原照三、木村 誓、丹羽雅由「 α -オレフィンに関する研究(第7報)」有機合成化学, 10, 498 (1952)

◇助教授 浅原照三、関口 一、木村 誓「 α -オレフィンに関する研究(第8報)」同上, 10, 538 (1952)

◇助教授 浅原照三、大学院学生 平井長一郎「半乾性油より乾性油の合成(第2報)」油脂化学協会誌, 1, 175 (1952)

◇助教授 浅原照三、金武克己「高級アルコールの塩素化及び反応生成物の分析」工化誌, 55, 591 (1952)

◇助教授 浅原照三、黒岩茂隆「軽金属の表面塗装に関する研究(第5報)」金属表面技術, 3, 102 (1952)

◇助教授 浅原照三、黒岩茂隆「各種合成樹脂ワックスの稀釈度と粘度との関係(第1報)」工化誌, 55, 587(1952)

◇助教授 浅原照三、富田 穰「脂肪酸ビニルに関する研究(第1報)、(第2報)」油脂化学協会誌, 1, 76, 79 (1952)

IIS NEWS

筆 者 紹 介

- ◇安藤良夫 助教授 専攻 熔接工学、船体構造学
- ◇福田義民 教授 工博 専攻 化学工学
- ◇河添邦太郎 講師 専攻 同上
- ◇趙 容 達 大学院学生 専攻 同上
- ◇三木五三郎 助教授 専攻 土質工学
- ◇平尾 収 助教授 専攻 内燃機関学、自動車工学
- ◇玉木章夫 教授 工博 専攻 気体力学・熱伝達

- ◇大島耕一 大学院特研究生 専攻 流体力学
- ◇吉弘芳郎 助手 専攻 糖化学及び醱酵化学
- ◇中村亦夫 助教授 専攻 同上
- ◇友田宜孝 教授 工博 専攻 同上
- ◇服部 剛 大学院特研究生 専攻 流体力学
- ◇古川 浩 研究員
- ◇塩原武治 日本無線株式会社・生産技術係
- ◇渡辺綱市郎 大学院特研究生 専攻 糖化学及び醱酵化学

編 集 委 員

編集委員長 福田 武 雄
 編集委員 富 永 五 郎
 玉 木 章 夫
 千々岩 健 児

編集委員 ※田 宮 真
 植 村 恒 義
 齋 藤 成 文
 安 達 芳 夫
 ※野 崎 弘

編集委員 山 本 實
 江 上 一 郎
 仁 木 栄 次
 久 保 隆 三 郎
 浜 口 隆 一

編集委員 野 野 昌 一
 編集幹事 下 村 潤 二 朗
 編 集 室 水 野 晴 明
 (*印は当番委員)

本誌の購読ご希望の方は下記へご照会下さい。

千葉市彌生町1
 生産技術研究奨励会
 振替口座東京108697

頒価は
 半年分 300円 千36円
 1年分 600円 千72円

第 5 卷 第 4 号 生 産 研 究

1953年3月25日印刷

1953年4月1日発行

(本誌は生産技術研究所の研究紹介誌として、毎月1回発行する)

編 集 者 福 田 武 雄

印 刷 者 大 蔵 省 印 刷 局

発 行 者 兼 重 寛 九 郎

発 行 所 東 京 大 学 生 産 技 術 研 究 所

東京都新宿区市ヶ谷本町
 千葉市彌生町1
 電話千葉 366-370